

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272500786		
法人名	社会福祉法人楽晴会		
事業所名	グループホームはるが丘		
所在地	〒033-0071 青森県上北郡六戸町犬落瀬字堀切沢59-54		
自己評価作成日	平成29年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成29年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内の隣接施設も含め、市に隣接し交通の便に恵まれた場所に立地しているも騒音等はなく、自然に囲まれたのどかな雰囲気の一部に位置し、建物も全体的に木目調の柔らかく優しい雰囲気となっています。共有スペースは広く、木のぬくもりと天窓からのやわらかい日差しがあり、椅子の配置等、一人ひとりがゆったりと安心できる場所作りの工夫をしています。職員はご利用者一人ひとりの力を引き出す支援を行い、安心して生活ができるようにご利用者の側に寄り添っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

玄関からリビングに入ると、天井が高く、天井の窓から程よい光が入ると共に内装の木目調の壁がうまく反射し優しい雰囲気となっている。共有スペースは利用者が思い思いにソファに座りくつろげる空間となっている。2ヶ月に1回の運営推進会議に出席している方も会議前に一緒に防災訓練に参加したり、地域住民の方が行事の際に野菜の差し入れを持ってきたりと、地域との関わりも常日頃からある。代表をはじめ、管理者が職員の意見を反映させ、グループホーム理念である「お客様と共にゆったり一緒に 楽しくを介護致します」を常に意識し、日頃から理念に立ち返りケアに活かされており、利用者が安心して生活できるよう取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人楽晴会の理念と当施設の理念を理解し、お客様一人ひとりの想いを尊重し、その心によりて支え安心できる生活を支援することを心がけ実践している。	職員一人ひとりが法人の理念・グループホームの理念である、「お客様と共にゆったり 一緒に 楽しくを介護致します」という地域密着サービスの意義を踏まえた理念を理解し毎朝復唱され、ケアの基本は理念であることを職員間で共有しケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の委員の方を通し、交流している。お客様の活動に積極的に参加して頂いている。また、家族の面会の際、他のお客様にも声をかけて頂き交流されている。	日頃から地域のイベントや幼稚園の運動会へ参加する等の交流がある。その他、地域住民の方から野菜を頂いたりクリスマスの際にはプレゼントを頂いたり日頃から地域との繋がりがあり、地域の一員として交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接施設と併せ、隣近所、地域住民との交流が行われている。また地域の広報などで行事の情報をお客様や家族様に伝え参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施している。会議ではGH内の様子や、認知症の方への理解と取り組みを報告し、いろいろなアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を実施され、民生委員、役場職員(福祉課)、地域住民、家族等が参加されており、会議の中で活動状況やサービス内容等、意見交換をして、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の研修会に参加し、介護保険の動向等の情報を得たり、更新手続きの相談をしたりと事業所の実情を積極的に伝えている。	3ヶ月に1回開かれる地域包括支援センターの研修会に参加され、出席している行政職員とも連携しており、グループホームの実情やケアサービスについて伝え、日頃から相談できる環境にある。又、包括の方から待機者の確認等の相談もあり協力関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行ない理解を深めている。お客様の行動を把握し拘束のないケアを職員皆で話し合いをし、ゆったりとした生活を送って頂けるよう取り組んでいる。	年に1回身体拘束についての研修を行い、正しく理解できる様に取り組んでいる。利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、職員間で話し合いをしながら身体拘束のないケアに取り組まれている。	やむを得ず身体拘束に該当している行為が発生している場合、家族から同意をいただいた上で実施し、廃止に向けた検討をグループホーム内で定期的実施していかねばならない。今後検討会議を重ねる事で、身体拘束をしないケアに繋がる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会やミーティング等を実施して理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の対応は管理者が行っている為、全職員の理解が不足している。定期的に勉強会を開催し、研修の場を増やすことで、職員の理解を深める取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、ご利用者やご家族等の不安や疑問点を確認しながら、十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体でオンブズマン制度を導入。年1回の満足度調査を実施。ご家族の面会時には、ご利用者の健康や日々の暮らしぶりについて報告している。事務所便りや個々に応じた報告を随時行っている。	オンブズマン制度を導入しており外部者へ表せる機会を設けている。又、家族へ年1回満足度調査を実施しており、そこで頂いた意見を情報開示し職員間で話し合いをして運営に反映されている。又、家族面会時にも利用者の報告を行い、その場でも意見を聞き、取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や会議で話し合った事を、管理者が代表に伝える体制ができており、業務改善にも反映されている。	毎朝の申し送りや会議の中で職員から出た意見や提案等が利用者の生活に反映されている。又、日頃から法人内でメールのやり取りをしたり、月1回の法人全体の会議でも職員からの意見や提案を伝えており、代表者や管理者と聞く機会が日頃から作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年4月より給与の見直しが実施され、やりがいになっている。ご利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるように、ご利用者の状態やペースに合わせた勤務形態となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務所内研修は、年間計画を立てて実施している。外部研修があった時は必ず伝達報告を行ない、情報の共有化を図っている。報告書は職員が自由に閲覧できる状態になっている。今年から介護部会、看護部会の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は役場の研修会に参加している。また法人内の研修発表会に参加し他の事業所の取り組みや活動を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ず本人に会い、心身の状態や本人の思い・不安な気持ち等を受容して共感的姿勢で接し、安心出来るような関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安な事、要望等を傾聴しまた家族の精神的な状況も含めて安心して施設に預ける事が出来る様に時間をかけて説明し、信頼して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等とこれまでの経緯について時間をかけて傾聴し、相談者が落ち着きを取戻した頃に次の段階へと必要な支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と支援者と言う意識を持たず、お互いに協調し、協力できる関係を構築しながら日々穏やかに生活できるような場面作りや声掛けを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の想いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、一緒に支える家族と同じ想いで支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の訪問等にはゆっくりと過ごして頂けるような雰囲気作りをして気兼ねなく来所して頂けるように努め、大切にしている。	家族の協力を得ながら馴染みの方との関係が継続できるよう働きかけをしている。利用者の知人等の面会も受け入れ、ゆっくりとした時間を一緒に過ごしてもらい、関係が途切れないように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶会の時、そしてその後の活動時等に多くの会話を持つように関わり合い利用者どうしが円滑になるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着サービスとしてサービス利用期間のみの関わりではなく終了後も継続的な関わりを必要とすご利用者様やご家族様には関係を断ち切らない付き合いが出来る様に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年2回のセンター方式や日頃のカンファレンスを活用し、本人とのコミュニケーションを図り傾聴し意向の把握に努めている。又、意志疎通困難な方は家族や関係者から情報を得て本人本位になるように努めている。	センター方式を活用したり、日頃から利用者との日常的な会話の中から意向の確認、把握に努め職員間で共有している。意思疎通困難な利用者に対しても、家族や以前の知人から情報を得たり、表情等から汲み取り、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり、その人独自の生活や歴史やライフスタイル、個性や価値観などをご家族や関係者などから聞き取りを行ないこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察し生活リズムを把握し、身体、精神面にも視点をおき、出来なくなった事、出来る事に注目し、一人ひとりの生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に観察している状況において変化や低下などの状態を家族・関係者と話し合い、事前に意向等を確認し、3ヶ月毎のモニタリングを実施し職員全員で意見交換を行ない現状に即した介護計画を作成している。	利用者個々の状態変化等、本人、家族や親戚が面会に来る際にその都度話し合いをして意向を確認している。抽出された意見を3ヶ月毎のモニタリング、担当者会議を通して職員全員で意見交換を行い、それぞれの意見を反映させ介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を記入し職員間で共有しながら実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援を柔軟に対応し個々のサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、運営推進会議やご家族様等から情報を得て、民生委員との接点を持ちながら資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院にはご家族様同行としているが、ご家族様の希望により、8名の方が往診している。状態変化のある時は連絡を取りながら、ご本人及びご家族の希望に沿った支援を行っている。	利用者や家族からの希望もあり、グループホームのかかりつけ医が往診されている。往診の内容については、職員から報告し状態共有に努めている。また、急変時でもかかりつけ医が来所し直接対応にあたるなど、医療面での充実した体制が確保されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じエリア内の看護職員と、日頃の健康管理や医療面において連携をとりながら、相談・助言・対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見守るようにしている。また、ご家族様とも情報交換しながら回復状況などを報告し、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合いご利用者が安心して終末期を過ごして頂けるように取り組んでいる。急変した場合は、すぐに対応できるよう各医療機関とも密に連携を図り、対応している。	終末期に向けた支援については、事前に家族の方へアンケートを通して確認しており、状態変化がある際にはその都度職員・家族・医療機関と話し合いをしながら今後の方針を共有し支援している。又、急変等があった際は隣接施設の看護師もサポートできるよう体制作りが整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の協力で、消火方法や避難経路の確認等、火災想定で訓練を行ない、地域と職員の協力体制を築いている。また、災害発生時に備えて飲料水、備品等を準備している。	年2回消防署立ち会いの元、訓練を実施され、2ヶ月に1回の運営推進会議の前にも会議出席者と一緒に昼夜両方を想定し訓練されている。又、地域の方と避難経路等の確認も行い、地域との協力体制も築かれている。災害発生時に備え、地域住民の分も食糧や備品も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティング事に職員の意識向上を図ると共に、日々のかかわりに関しても職員間で振り返り、ご利用者の尊厳、個別情報の保護に努めている。	利用者一人ひとりに対しての声掛け、対応はプライバシーを損ねないように、常に理念を振り返りながら職員間で確認し、良いケアに繋がるように取り組まれている。又、外部研修や内部研修を通して研鑽を深め、職員一人ひとりが意識を高めて日々利用者に接している。	排泄に関わるケアは利用者にとっての尊厳に大きく関わることである。居室内にオムツ等の排泄物品が外部者にわかるように置いている事により、利用者の尊厳が失われてしまう。尊厳の確保について色々な視点から考え、一人ひとりの人格の尊重、プライバシーの確保が更にできるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者と過ごす時間を通して、ご利用者の希望、関心、試行を見極め、それを基に日常の中でご本人が選びやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、無理のないよう過ごして頂いている。その日、その時のご本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者一人ひとりの個性を大切に髪型や服装、おしゃれを支援している。また、不十分なところや整容の乱れをさりげなく介助するなどの支援を行っている。不足なものも買い物を代行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒にテーブル拭きや食器の片づけ等、一人ひとりのできることを、自発的に行う環境ができている。重度化になり食事介助もあるが、職員も一緒に同じテーブルに座り、楽しく食事ができるように、雰囲気作りに配慮している。	食事中は職員も隣に座り、昔の食べ物に関する話題の中から嗜好を確認し、今後の食事内容に取り入れる事で食事を楽しんでもらえるよう工夫されている。職員と一緒に食器の片付けやテーブル拭き等を行い、利用者一人ひとりが出来ることを把握し支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の栄養士が献立を作成し栄養バランスのとれた食事となっている。毎日水分補給に努めると共に、必要に応じて摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ご利用者ができそうなところは自力でやっていただき、その後不完全な部分を職員がケアしている。夜間は毎晩入歯洗剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながら、尿意のないご利用様にも時間を見計らって誘導する事により、トイレで排泄出来る様に支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄表、水分チェック表を元に把握され、トイレ誘導を行っている。又、紙パンツではなく布パンツを使用し、他者に気付かれない様さりげない声掛けでサポートしながら自立に向けた支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックシートの活用や繊維質の多い食料や乳製品を取り入れている。散歩やラジオ体操、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を拒む利用者に対して、言葉掛けや対応の工夫、チームプレイなどによって、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	週2回入浴を実施されているが、入浴を楽しめるように、その日の利用者の状況に合わせて、曜日や時間帯、職員を変え対応し、個々に応じた支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を多く持ち、生活リズムを整えるよう努めている。入眠出来ないご利用者様には温かい飲み物を提供する等、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は職員がご利用者の名前を声に出して確認をし、職員二名で服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮していただけるように、センター方式シートを活用してご利用者様の生活歴や楽しみごとを把握し、気分転換出来る様支援を行っている。役割を終えた後には必ず感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の気分や希望に応じて、季節感を肌で感じていただけるよう、心身の活性化を図る為にも、日常的に近隣の散歩や買い物支援を行っている。	重度化に伴い難しくなっている部分もあるが、個々のニーズに応じて、ドライブ・近場への散歩や園庭での花に水やり・買い物に出掛けたりと気分転換出来るよう支援されている。又、必要に応じて家族に協力できるように働きかけをされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご利用者がお金を持つことの大切さを十分に理解をしており、一人ひとりの希望や力に応じて、ご家族様に相談しながらお金を所持したり使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に相談しながら、ご利用者自らが自由に電話を掛けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井が高く、そこから柔らかい光が差し込み、建物も全体的に木目調の優しい雰囲気となっている。ご利用者様はソファや思い思いの場所でゆったりと過ごされており、居心地良く暮らせる工夫をしている。	ホールは天井が高く、天井の窓から程よく光が入っている。内装は木目調になっており、ホール内の光が反射し優しい雰囲気となっている。利用者が思い思いにソファに座りテレビを観たり、季節の飾り付けがある等、季節を味わいながらゆったりと居心地良く暮らせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で他の利用者の方の気配を感じながらも一人で過ごせる居場所づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた日用品が部屋にある事で、ご利用者が居心地良く暮らせるように工夫し配慮している。	利用者が自宅で使っていたタンスや慣れ親しんだ生活用品、写真が持ち込まれており、安心して自宅のように居心地が良く暮らせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の身体機能に配慮して、浴室やトイレ等に手すりを設置し、安全確保と自立した生活が送れるように工夫している。		